

IV 普通畑作物

1 施肥量

(kg/10a)

作物	目標収量 (kg/10a)	成分	元肥	追肥		計	備考
				1	2		
畑稲	300	N	6	1~2	1~2	8~10	追肥 1 は 6 月下旬~7 月下旬、追肥 2 は 8 月上旬。ミズハタモチの場合、追肥を 2~3 割増とし、追肥 2 を 7 月下旬とする。
		P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	10	0	0	10	
		K <sub>2</sub> O	5	2	0	7	
ばれいしょ	3,000	N	5	6	0	11	追肥は塊茎肥大開始期とし、培土を行う。
		P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	10	0	0	10	
		K <sub>2</sub> O	9	6	0	15	
落花生	300	N	4	0	0	4	全量元肥とし、ポリマルチ栽培。 耕起前に苦土含有石灰肥料 200kg/10a を施用する。
		P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	10	0	0	10	
		K <sub>2</sub> O	11	0	0	11	
なたね	250	N	4	4	3	11	追肥 1 は抽だい始期、追肥 2 は開花始期。 直播栽培の場合は、元肥は N 量を左表より多くする。
		P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	8	0	0	8	
		K <sub>2</sub> O	8	0	0	8	

2 施肥上の注意事項

- ①この施肥基準は、気象、土壌条件によって加減する必要がある。
- ②畑地土壌は一般的に窒素地力が低く、また施肥した窒素は硝酸化成が速やかに進むため流亡を来しやすいので注意する。
- ③畑作物は、比較的石灰型作物の栽培が多いため、石灰の吸収量が他の作物に比べ多くなりがちである。石灰の流亡と相まって土壌の酸性化を招くおそれがあるので、石灰による土壌改良、養分の補給が必要である。
- ④畑地は一般に養分の固定力が強いといわれる。黒ボク土では、特にリン酸の固定能が強いため、リン酸資材による土壌改良とともに施肥リン酸を増す必要がある。
- ⑤畑地では有機物不足にともなって土壌がち密化しやすく、それによって土壌構造が破壊され、通気性や透水性を損なうことが多い。有機物補給による耐水性団粒の発達を図る。堆肥の施用法については第 2 章を参照する。
- ⑥畑稲は土壌の保水性の点から、火山灰土壌に主として栽培される。そのため、リン酸の施肥量をやや多めとする。
- ⑦落花生は石灰の施用効果が高いので、酸性土壌、石灰欠乏の土壌では特に石灰を元肥前に施用し、作土全層によく混和する。
- ⑧なたねはハウ砂 1~2kg/10a 程度を元肥か抽だい始期に施用する。